

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	渋川子ども若者未来創造プロジェクト		
所在地	群馬県渋川市	設立年	2018年
運営主体	渋川子ども若者未来創造プロジェクト		
事業目標	<p>令和3年度の事業成果として児童生徒の演劇活動に対する潜在ニーズの掘り起こしの可能性が明確になったことから、その活動の受け皿となるよう、地域活性化を目的に多世代交流で活動する市民ミュージカルを、地域における文化芸術活動としての認知度を高めながら持続可能な仕組みを構築していく。</p> <p>同時に演劇活動における教育的価値を生かした子どもたちが生涯を通して学び・体験ができる環境づくりに向けて、渋川地域における演劇活動の「地域文化倶楽部」の創設に向けて、世代間や他地域との交流による地域の活性化にもつながる特色ある活動モデルとなることを目指す。</p>		
きっかけ	<p>多様な人とのつながりで地域を活性化していくことをねらい、2018年に在京劇団と連携して市民ミュージカルを初めて立ち上げた。オリジナル作品づくりを通して世代を超えた参加者の交流が始まり、演劇活動における主体的な学びは豊かな表現力やコミュニケーションづくりに役立った。</p> <p>多くの観客を前に演じきる感動は、達成感の共有や活動意欲の向上にもつながった。こうした教育的価値の高い体験活動を多くの子どもたちに提供したいと考えた。</p>		
団体・組織等の連携	渋川市教育委員会、小中学校、公民館等		
活動場所	市内公民館でWSを実施、学校や教育施設では出前WSを実施		
活動概要	<p>渋川地域で舞台芸術分野で初めて立ち上げた市民ミュージカル活動を「地域文化倶楽部」の創設に向けた基盤づくりとなるように以下の活動を展開した。</p> <p>①地域部活動の受け皿づくりとして欠かせない指導的な人材を育成するために「指導育成WS」を5月から始めた。</p> <p>パートナー劇団「もんもちプロジェクト」メンバーの指導・助言を受けながら、これまでの活動を振り返り広報(WS参加者募集)やWS運営(会場準備から当日運営、参加者への連絡等)の実務、演技指導のサポートに携わった。</p> <p>②地域部活動WSとして、7月にミュージカル出演者を公募、8月から練習(WS)を始めた。1月の舞台公演に向けて市内各地の公民館で練習(公開)を行った。</p> <p>キャストには小学生から年配者まで幅広い年齢層が応募した。5か月余に及ぶ練習を重ねて初めてのダブルキャストで臨んだ舞台公演は、3日間で4回(3会場、入場無料)実施した、大勢の観客からは出演者の熱演に大きな拍手が送られカーテンコールを繰り返した。</p> <p>また、劇団演出スタッフの助言を受けながら小道具づくりにも挑戦した他、公演日の運営スタッフにも多くのボランティアが参加した。市民ミュージカルとしての認知度が徐々に広がってきていると実感した。</p> <p>③学校向けの出前WSは、昨年実施した小学校(2学年実施)では全学年が個別に開催した他、新たに中学校1校、高校1校(部活動)で実施できた。</p> <p>中学校では4日間WSを行い、最終日には保護者に向けた授業参観として成果を発表した。女子高校では、複数の部活動生徒を集めた身体表現のWSを実施、その後、合唱部員を対象にしたミュージカル講座も行うことができた。</p> <p>出前WSは、児童生徒の主体的、探究的学習に演劇の手法が効果があるとの学校現場からの高い評価もあり、受け入れに好意的であった。</p> <p>④地域フォーラムでは、部活動の地域移行に先進的に取り組んでいる静岡県掛川市教育委員会の担当者を招いて「かけがわ文化クラブ」の取組を報告していただいた。渋川市教委の協力を得て学校長やPTA会長らと交えた「部活動の地域移行に向けた意見交換会」と初めて公開実施することができた。</p>		

○本事業による成果

基盤づくりの活動概要に沿って以下のとおり成果を整理した。

①指導育成WSを通しての成果は、市民ミュージカル活動の継続に向けた運営上の課題について具体的に取り組むことができたことである。

- ・WSや本公演を運営するスタッフに自主的な参加者があったこと
- ・劇団スタッフのサポートを受けながら実務体験の目的を達成できたこと
- ・公演後の話し合いを通して次年度に向けた成果と課題を共有できたこと

これらの成果を踏まえて次年度はより主体的な活動を続けていきたい。

②ミュージカル参加者に小学生や中学生の新たな参加があった。大人との熱心な練習にも真剣に取り組む多くの観客の前で発表できたことは大きな自信につながった様子で次回も是非参加したいと継続の意思をキャスト・スタッフ・関係者の前で表明してくれた。

初めて参加した大人からも活動継続の希望もあることから、演劇活動に興味関心を持つ子どもたちの受け皿として市民ミュージカル活動の定着をさせていくことで「地域部活動」創設の可能性を実感した。

③学校向け出前WSは児童生徒のニーズ発掘を目的に、小中学校では国語科の授業を通して演劇的手法を用いた体験活動として実施した。子どもたちは舞台表現に向けて話し合い協力し合いながら発表できたことで大きな達成感を味わうことができた。初めての演劇的表現活動に興味関心を持つ児童生徒もいた。

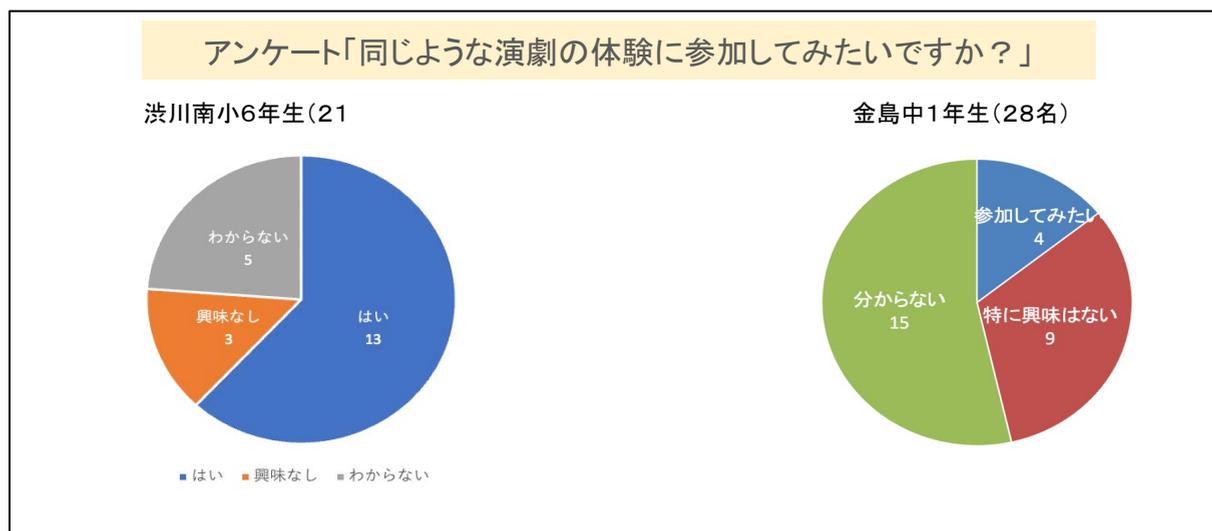
また、教職員にとっても事前準備の負担なく実施できたこと、子どもたちの主体的な学びを実践できたことは高評価であった。その結果、次年度の継続実施の希望が学校側から寄せられた。

学校現場に演劇的表現活動の魅力伝える効果は大きく、市民ミュージカル活動の認知度が広がることと連動して子どもたちの活動参加の希望が広がることを期待できる。このことは地域部活動の一つとして「演劇部(ミュージカル含む)」の創設の可能性が大きくなったとも言える。

④地域フォーラムでは、地域文化倶楽部創設の先進地域として静岡県掛川市教育委員会を招いて「かけがわ文化クラブ」の実践報告をしていただいた。

渋川市教委との連携のもと、部活動の地域移行の議論を初めて公開で実施する機会にもなり、スポーツ・文化活動の現状と課題について活発な意見交換を行うことができた。

その結果、渋川市教委主催の令和4年度「教育都市渋川」を創るための調査研究会において、部活動の地域移行に向けた本プロジェクトの取組について現状を報告する機会を得ることができた。今後、市教委とともに文化部活動の地域移行に向けた検討会に加えていただくことになったことは最大の成果と言える。



○児童・生徒への指導に関する工夫

①小・中学校では国語科教材をとり入れたことで子どもたちの関心を高めることができた。昨年度の高評価もあって学校側も協力的であった。授業導入時のコミュニケーションづくりも学年に応じて変化を加えて実施した結果、成果発表に向けた共通理解を子どもたちと深めることができ、高い満足度を得ることができた。

②舞台活動は様々な役割を持った人たちで構成されていることから、指導にあたって多様な選択肢を提示して、自分に合った行動を取れるようにした。また、子どもたちの反応や提案に耳を傾けていて積極的に採用していった。

③参加者にとって心身ともに安全・安心な居場所であることを常に心掛けて指導にあたった。

○運営上の工夫

- ①指導者については、連携先の劇団「もんもちプロジェクト」主宰、演出家の中原さんの全面的な協力を得て、専門家を派遣していただいた。地元の経験者が指導者の補助をする形で協力してくれた。
- ②地域部活動WSは舞台公演を目標に参加者を公募、市内全小中学生・教職員にチラシを頒布、市民向けには自治会回覧板を通じて周知、市内公共施設にもチラシを配布して広報を依頼した。参加し易い土日・休日の昼間に開催した。また、市民の認知度を高めるため、WSを市内各地の公民館で開催し練習の様子を公開した。公演は3公民館で開催し無料公演とした。
- ③指導育成WSに参加した運営班メンバーが、参加者(保護者)に向けてWSに関する情報提供を行った。また、各公民館における練習会の運営にも携わった。
- ④WSの参加者は開催日に全員イベント共済保険(全国共済農業協同組合連合会)に加入した。出前WSは受け入れ教育機関の保険が摘要される管理下で実施した。
- ⑤本プロジェクトは生涯学習活動団体として認定登録されたため、WS会場の公民館使用料が免除された。教育長と生涯学習課を運営・企画委員会の構成員にしたことで学校現場への働きかけが容易になった。
- ⑥教育支援センターで実施したWSでは利用する生徒の他に保護者、指導員にも参加してもらい、和やかな雰囲気の中で実施できたので生徒の前向きな参加につながった。
- ⑦昨年に引き続き地元新聞、TV局にWS取材を積極的に働きかけ県民に向けて広報をお願いした。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ①ニーズを掘り起こす学校向けWS継続の検討
学校側からWSの継続を望む声もあるので市教委とも検討を行っていききたい。
ニーズ発掘・拡大を継続していく必要性はあるが経費負担の問題が大きい。
- ②地元指導人材の育成
運営スタッフ育成WSの成果と課題を踏まえて人材育成に継続して取り組んでいきたい。
しかし、劇団のサポートを受けながらの人材育成なので自立した運営となるとかなりハードルが高くなる。
継続した連携支援が不可欠である。
- ③指導人材の確保
劇団スタッフをサポートする形で振付や歌唱の補助的な役割を果たす場面が多くあった。引き続き連携しながら役割を広げていくようにしていきたい。
指導者となると責任が伴うので素人の取組としては限界がある。参加費を徴収して行う事業なのでプロ指導者の補助的な役割に限定にされるが、継続して取り組むことで徐々に役割を広げていくしかないと考えられる。サポート劇団による支援は絶対不可欠である。
- ④活動における地域認知度の強化
公民館を巡回しながらWSを実施したため施設職員や地域住民の認知度を高めていききっかけとなった。引き続き努力していきたい。
- ⑤安定した事業の継続に向けた事務局体制の強化
WSの準備や運営に携わる運営スタッフ班体制を取り入れたため事務局の負担が軽減された。事務局と運営班とのより密接な連携が今後の課題とも言える。
- ⑥活動に係る安定した財源の確保
全ての参加者から活動内容に応じた会費をいただくとともに、安定した財源確保に向けた取組の検討を継続していきたい。
本プロジェクトでは、これまでも参加費だけで事業を実施することができないためチケット販売や協賛金集めを行ってきたが、委託事業で取り組んできたような部活動の地域移行の受け皿づくりには、継続した公的支援が絶対不可欠であると考えられる。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

当団体が目指す、地域文化倶楽部の形は以下の通りである。引き続き試行錯誤を重ねながら段階的に取り組んでいきたい。

<地域文化倶楽部のあり方>

- ①市教委と連携を取りながら子どもたちのニーズの掘り起こしとして演劇的手法を用いた学校向けWSを継続していきたい。
- ②多世代型の部活動としてオリジナルミュージカル作品づくりや舞台発表を目標にした継続的なWSを継続していきたい。同時に地域住民の認知度を高めるための創意工夫を重ねつつ、多様な価値観を学ぶことのできる地域文化倶楽部の創設目指していきたい。
- ③市教委が進める部活動地域移行に向けた検討会議に積極的に協力しつつ、市民ミュージカル活動の認知度を高めるための情報発信に努めていきたい。
- ④市教委が取り組むコミュニティスクールの設置、公民館を中心にした地域文化活動の強化といった動きにも関心を持ちながら、ひき続き情報交換を密に行っていききたい。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	参加者総数 52名(うち小学生6名、中学生2名) キャスト、スタッフ、運営ボランティア
	学校名	出前WS: 渋川南小学校(全学年147名) 金島中学校(1年生28名) 県立渋川女子高校(コーラス部、演劇部、吹奏楽部員1~3年生49名)
		津久田小、北橋小、駒寄小、清里小、渋川北中
	募集方法	体験WSの参加者募集チラシを市内全小中学生・教職員に配布した他、自治会の回覧板を通して全世帯に周知した。市役所・市教委の協力を得て、公的施設に配布した。
指導者	人数等	パートナー劇団「もんもちプロジェクト」主宰中原和樹氏ほか、外部専門家で構成(5名)
	募集方法	プロジェクトとして全面的支援をお願いした
参加者の移動手段		子どもたちは保護者等による送迎
活動費用	指導者謝金等	謝金5,100円/時間 交通費9,640円(東京~渋川 新幹線利用)
	その他	WS参加費(保険料を含む) キャスト 10,000円(公演含む) 舞台スタッフ 5,000円 運営ボランティア 1,000円
活動財源	会費	同上
	その他	今年度は入場料収入なし(無料公演)、協賛金も徴収しなかった。
スケジュール	基本活動	舞台公演を目標に参加者を募集したい。 学校向け出前WSは市教委と協議したい。
	年間	参加者募集は7月以降の予定
保険加入等		イベント共済保険(全国共済農業協同組合連合会)に加入

【活動の様子（写真添付）】

① 指導育成WSの様子



作品づくりやWSの運営について丁寧に話し合い、発表し合って考え方を共有した。

② 地域部活動【WSの様子】



WS(演技指導等)は市内各地の公民館を利用して行われた。

【本番の様子】



本番はダブルキャスト、3日間で4公演を実施した(会場は市内3公民館)。

③ 出前WSの様子

【小学校低学年】



【小学校高学年】



【中学校】



【高校】



児童生徒の発達段階に応じた内容で、授業や部活動の時間を利用して実施した。

④ 地域フォーラムの様子



部活動の地域移行に向けた現状と課題について意見交換を行った。